

平成 25 年度 病虫害発生予察 特殊報 第 1 号

病虫害名： トマト葉かび病菌レース 2.9

〔病名：トマト葉かび病 *Passalora fulva*(Cooke)〕

対 象： トマト

1. 特殊報の内容

トマト葉かび病菌レース 2.9 の発生を都下で初めて確認した。

2. 発生経過

- (1) 2012 年 5 月上旬，都内多摩地域の施設トマトにおいて、葉かび病抵抗性遺伝子 *Cf-9* を持つ品種「CF 桃太郎はるか」に葉かび病の発生が認められた。
- (2) *Cf-9* を持つ品種における葉かび病の発生は都内で初確認だったため、発病葉から分離された菌株を独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所にレースの検定を依頼したところ、レース 2.9 であることが確認された。
- (3) 現在までに、発生が確認されているのは 1 圃場のみである。
- (4) *Cf-9* を持つ品種を発病させるレースは東北から九州地方にかけて 12 県で確認されており、レース 2.9 は岩手県、熊本県、大分県、岐阜県等で報告されている。

3. レースの性質

レース 2.9 は、葉かび病抵抗性品種のうち抵抗性遺伝子 *Cf-2*、*Cf-9* を持つ品種を発病させる。

4. 病徴

- (1) 施設栽培で発生が多い。はじめ、葉表に不明瞭な淡黄色の小斑点を生じ、それが円形又は不整形に拡大し、葉裏に円形又は不整形灰白色～緑褐色のピロード状のかびを生じる（図 1）。症状が進行すると、菌叢の色は灰褐色～灰紫色に変化し、病勢が激しい場合は下葉から枯れあがる。
- (2) レースや品種による病徴の違いは認められない。
- (3) なお、都下では葉かび病と病徴が類似するすすかび病も発生しているが、肉眼による判別は困難で、顕微鏡観察による分生子の確認が必要である（図 2、3）。

5. 防除対策および注意

- (1) 葉かび病抵抗性品種を栽培している圃場でも、葉かび病の発生に注意する。
- (2) 多湿や肥料切れによる草勢低下は発病を助長するため、換気や適切な草勢・肥培管理を行う。
- (3) 多発すると防除が困難になるため、発生を認めた圃場では速やかに葉裏にもかかるよう丁寧に薬剤散布を行う。
- (4) 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一成分及び同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション散布を行う。
- (5) 発病葉は次の発生源となるため、速やかに施設外に出し、適切に処分する。



図1 トマト（品種：CF 桃太郎はるか）に発病したトマト葉かび病の病徴



図2 . トマト葉かび病菌の分生子



図3 . トマトすすかび病菌の分生子